

読者の
皆さんへ

『保健師ジャーナル』は 創刊70周年^{*1}を 迎えました。

創刊号（1巻1号）には、『『保健婦雑誌』は新時代の保健婦の希望と歓びと悲しみとを鏡のように照らし出すことであろうし、苦楽を共にするであろう。そしてまたある時にはその行く手を照らす灯台の役割を果たすに違いない』^{*2}という文章があります。

その言葉通り、現在までのバックナンバーには多岐にわたる保健師活動が文章や写真で紹介されており、保健師の仕事が、その時代の人々の生活や社会の動きと、密接に関わるものであることが伝わってきます。

そして、2020（令和2）年の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大は、公衆衛生の最前線に立つ保健師の活動に大きな影響をもたらしました。現在もなお、多くの現場で保健師の方々が増大した業務に当たっておられます。

そのような中で創刊70周年の節目を迎えた今、『保健師ジャーナル』は、読者に情報を届けるという雑誌の役割をあらためて噛みしめつつ、今後も保健師の皆さんと「苦楽を共に」して歩ませていただきたいと思います。

読者の方々をはじめ、これまで弊誌に関わってくださった全ての方々に御礼申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

2021年1月 『保健師ジャーナル』編集室

*1：『保健婦雑誌』第1巻1号は1950（昭和25）年12月発行、翌1951（昭和26）年2月に第1巻2号を発行。2003（平成15）年から『保健師ジャーナル』に誌名変更。

*2：『『保健婦雑誌』創刊に寄せて』三木行治（厚生省公衆衛生局長）